



【神の御国を求める祈りの重要性】

説教者：鄭南哲牧師

聖書箇所：マタイの福音書6章9－13節・25-33節

(Rev.Jung namchul)

9ですから、あなたがたはこう祈りなさい。

『天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。

10御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように、地でも行なわれますように。

11私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。

12私たちの負い目をお赦してください。私たちも私たちに負い目のある人たちを赦します。

13私たちが試みにあわせしないで、悪からお救いください。』

(国と力と栄えは、とこしえにあなたのもものだからです。アーメン。) (マタイ6:9-13)

愛するクリスチャンプレイズ教会の信仰の家族のみなさん！GWの大型連休はいかがお過ごしでしょうか。

日々忙しく過ごし、疲れて来たみなさんの心と体よく休められ、良い休息となりますように心からお祈り申し上げます！

イエスキリストが教えて下さったもっとも大切な主の祈りの中、すべてが大切ですが、その中でも始まったこの5月に我らがともによく祈っていきたくと大事な祈りの内容について学びたいと願います。

<1. 福音書のテーマである神の御国>

「御国が来ますように。御心が天で行われるように、地でも行われますように。」

この祈りは、花の若芽(わかめ)のように、目玉のように大切な内容です。

なぜなら、**“神の御国”の中には私たちが求めようとしているすべてが含まれているから**です。

イエス様の働き自体が神の御国のための生涯だったからです。

イエス様が公に一番初めに述べ伝えられたことが**“悔い改めなさい。神の国が近づいたから(マタイの福音書3章2節)”**というイエス様の宣言でした。イエス様は神の御国のために来られ、御国のために働かれました。

絶えず御国について教え、そして、神の御国のために必ず祈るように教えて下さいました。

使徒の働き1章を読んでみますと、イエス様が地上で働きを終え、天に昇られる前、弟子たちと一緒に過ごしながら言われた言葉の主題もやはり御国についてだったと記されています。事実、神の御国については主の祈りだけではなく、聖書全体の主題であり、四つ(マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ)の福音書全体の大切なテーマでもあります。**マタイの福音書では49回、マルコの福音書では16回、ルカの福音書では38回も神の御国について語られています。**

* 神の御国はどんなところでしょうか。

新約聖書の一番最後に出ている聖書の中**ヨハネの黙示録21章**から読んで見ますと、使徒ヨハネは神が見せて下さったまぼろしを通して、実際神様の御国を拝見させて頂き書かれていることが分かります。神の御国の道はまるで黄金の道であって、すべての家は十二宝石みたいに言い表せないほど美しく作られていたと言っていますが、ヨハネの知っている表現の最高の表現だったと思うので、私は天国がこの御言葉の表現より、はるかに美しいところだと信じています。

ヨハネの黙示録21章1－8節では、「1また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。2私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように 整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。3私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。4神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」5すると、御座に座っておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」6また私に言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。わたしは渇く者に、いのちの水の泉から、ただで飲ませる。」7勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。」

使徒ヨハネは神が見せて下さったまぼろしを通して、実際神様の御国を拝見させて頂きかなり詳しく書かれていることが分かります。神の御国は必ず存在するところであることを聖書とイエス様は明確に教えて下さっています。

一般的に国を構成するには、「領土・国民・主権」が必要だと言われています。その基準で考えて見ますと、神の国には、神ご自身が全て主権を持って完全に治めておられるところ、神を信じ、従う神様の民たちがおり、単なる抽象的ではなく、実際に詩空間的に神の国は実際体験出来る存在であります。しかし、そんな黄金の道や宝石などがあるわけで、神の御国が天国らしくなることはありません。**天国が天国らしくなる真の理由はほかにあります。それは天国のすべての人々がみずから天の父なる神様の御心通り従って、そこにいる人々は神の御心を喜んで行なっているからです。**

神の御国は主の祈りの中で今日の本文「**御国が来ますように**」の次は何ですか。

「**御心が天で行われるように地でも行われますように**」と教えてくださいました。

ここでイエス・キリストが教えて下さっているのは、「**神の御国は実際存在するところである。来世的なところだけではなく、生きているうちにも実際体験出来るところ**」であることを教えて下さっています。つまり、「**神の御心通りに全てが行われるところ**」であるなら、そこで神の国を体験することが出来ると教えて下さっていることが分かります。

父なる神の御心通りに行われる所であれば、どんな所であれ、そこに**神の御国が訪れている、神の国となる**ということが主イエス様は教えて下さった内容であります。

天国にいる誰一人例外はありません。なので、もし神の御恵みと愛の統治の中にみんなが神の御名をほめたたえ、感謝しつつ、父なる神様の御心、御言葉通りに行われているならば、まさにそこに神の国、御国、天国ではないでしょうか。**神の御心が通じ行われるところ、神様との密な交わりのあり、御言葉通り従い、成就されるところになっていけば、その人の心に、その家庭の上に、その牧場の上に、その教会の上に、神の御国が訪れているのでは**ありませんか。最近、みなさんの心には神の御国が訪れているでしょうか。この主の祈りの内容の通り、御国を求め続け、みなさんの家庭の上に、職場の上に、我々の教会の上に神の御国が訪れ、体験されているでしょうか。

<2. 我々にとって最も大切な御国への祈り>

イエス様が教えて下さった今日の箇所もとっても短いですが、神の御国がこの地に、我々のうちに、家庭に、かかわっている全てのところに望まれるようにイエス様は弟子たちに祈れるように教えて下さいました。神の御国を求める祈りはもっとも大切な祈りです。なぜなら、「**神の御国”の中には私たちが求めようとしているすべてが含まれているから**」です。

神のご支配の中で**真の平安と慰めがあり、願いや必要が全て神により満たし、神の癒しと回復、勝利の力すべてが含まれているから**です。もし、**私たちがいくら何回も祈ったとしても神の国の臨在の祈りを除いて祈るなら、それは、一番大切なことを抜き取った祈りになってしまいます！**イエス様が教えて下さったように「**御国が来ますように**」と祈るなら、個人的に自分のいくつかの願いがぬき取られたとしてもそれは完璧な祈りとなれるのです。それほどこの箇所は大切です。

なぜ、神の国を祈り、求める事が大切でしょうか。我々がイエス様を信じる理由は何ですか。

それは聖書の神の御言葉の約束通り、**イエスキリストのみを信じることによって救いを得るため**でしょう。**救われることこそ、私たちの究極的な信仰の目的**です。神の子ども、神様を父なる神様と呼べる関係になれるでしょうか。

ヨハネの福音書1章12節「しかし、この方(イエス・キリスト)を受け入れた人々、すなわち、その名(イエス・キリスト)を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。」

そうです！イエスキリストを信じる全ての人々にはどんな人であっても神の子どもとされる特権はお与えになる、それが特権になる意味の中には父なる神の家、父なる神の国に入れるという信じられない祝福の約束と特権であるわけです。

神の御国には公平で、だれでも入る事が出来る機会が与えられています。救いというのは、言い換えれば、**神の御国の民となること、神の御国に入り神とともに永遠に生きること**だと言えるでしょう。いつか我々みんなは一度のこの地上での人生の生涯を終える時が来ます。神の御言葉では人生を終えた後、すべてがお終いではなく、かならず生きておられる父なる神の御前に立たされ、預けられていた人生のすべてを清算される時があり、その後、神の御国(天国)と第二の死、

永遠の死のところである地獄が待っていることを聖書は明確に教えてくださっています。

しかし、神の国というのは時間と空間の制約を受けるところではありませんので、ただ死んだ後でだけ入るところだけではなく、この地においても、いくらでも味わえる永遠の国なのです。ようするに、イエス様を信じるなら、死んだ後にも天国には入れますが、生きている間でも地上の上にも神の国は臨まれ、天国の市民としての生活を味わえるということです。 **事実、もしも神の御国がなければ、私たちはイエス・キリストのみを信じる何の理由もないかも知れません。**

イエス様の時代、群衆の多くの人たちがイエス様を追いかけました。なぜでしたか。イエスキリストを信じて、救われるより、目に見える一時的な祝福ばかり欲しがったからです。イエス様を信じれば健康になり、イエス様を信じれば食べ物も心配しなくても良いなどということとか、自分たちの日ごとの必要のすべてを満たして下さるだろうなどがイエス様を追いかけた多くの群衆たちの理由でした。

今日も、多くの人の中でも、イエス様を信じる理由が、ただ物質と健康、昇進、進学など程度の祝福を頂くぐらいで、もし、イエス様を信じる理由、祈る目的がただそのぐらいだとすれば、みなさん、かならずイエス様のみを信じる必要がないかも知れません。みなさん、実際よく周りを見て下さい。この世の中で別にイエス様を信じていない人たちの中でも健康な人やお金をたくさん持っている金持ちの人たちはたくさんいます。イエス様を信じなくても、イエス様を知らないのにもかかわらず、物質に満たされたりや健康に恵まれている人たちや、職場で昇進し、成功している人々も、名門の大学に進学している人々も多くいるでしょう。そのようなことがイエス様を信じる目的であるならば、かならずしもイエス様のみを信じなくても良いかも知れません。

しかし、クリスチャンプレイズチャーチの愛する信仰の家族のみなさん！だれでも神の国には入れますが、だれもが入れません！ イエスキリストを信じなくては、この世でどんなに金持ちで、成功して、元気で、良い評判を持っていても、救いは得られません。この世の中でどれほど出世して、強い権力を持って、金持ちだとしてもイエス様を信じなくては、決して御国に入れません。天国の市民になりません。

反面、たといこの世では認められず、あんまり健康でもなく、経済的にもそんなに余裕がない状態であってもイエスキリストの御名をわが受け入れ、信じた者たちは過去どんな人生を過ごし、どんな罪があった人でどんな人でも、**聖書の父なる神の約束通り、神の御国の門は開かれています。** ですから、**人生の真の勝利者はだれですか。永遠の神の御国に入れたかどうか**が**本当の人生の勝利の基準になります。** それにもかかわらず、イエス様を信じる私たちがひたすら神様にただ自分の物質と健康と出世の道、そのぐらいの祝福だけをいつも祈り求めているならそれは、イエスキリストが教え、与えて下さった神様の御国という一番大切に求め、頂ける事を見逃していることになります。

ピリピ人への手紙3章20節「私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」

神の御国には公平で、だれでも入る事が出来る機会が与えられているのです。

とんだ者にでも公平なのです。だれでも御国に入ることができます。だれにも差別なく同じ資格があるわけなのです。**イエスキリストとその御国への100%の絶対信じる信仰(信仰の証明:信仰告白+洗礼)**がなければ、ただ部分的な50%、80%ぐらいの信仰では決して神の御国に入れません。中世時代には、墮落していたローマ・カトリックは人々からお金をもらって、天国行きのチケットを売り買いするほど腐敗され、歪曲された教会の時代もありましたが、1517年「**神の救いはただ主を信じる信仰によるもの！**」という聖書中心の宗教改革運動がドイツのマルティンルター先生によって起こされました。神の御救いは、お金でも、人の良い行いでもなく、聖職者によるものでもなく、ただ全的に信じる信仰によるのみである(ローマ1章17節ただ信仰によって生きる)ことを全世界の教会とクリスチャンたちに知らせるきっかけとなったわけです。今日私とみなさんにとって神の国はどのぐらいの価値があり、意味があるのですか。**地上の人生がどうだったとしてもその後、永遠の神の御国に入れる人こそ、神から許されたこの地上で誠に成功した、祝福された人生だと信じます。**

<3. まず、神の国を求めましょう！>

私たちは人生の中で、仕事の中で、先にやるべき優先順位のことがあると思います。もし私たちが後にやることを先に済ませ、先にやるべきことを後回しにしてしまうなら、私たちの人生や仕事はどれほど混乱し、複雑になってしまうのでしょうか。だから、みなさん、我々はいつもこのサタンの戦略や試みに惑わされてはいけません。

祈る時にも、いつも自分に具体的に必要な物を求める前に、まず先に、神の国が訪れるように祈りなさいと教えて下さいました！当然人にとって食べ物と着る物などはとっても大切な話題でもあります。人にとって衣食住(いしょくじゅう)の三要素は欠かせないものです。だからイエス様も教えて下さった主の祈りの中、「今日の日用の糧がお与えくださるように」祈りなさいとも教えて下さいましたが、主イエスキリストは、我々が神に個人的に自分に必要なことを求める前に、先に求めるべきことがまず、御国が来ますように、神の御心が天国で行われているように地(わがうちに、わが家庭に、わが牧場に、わが職場に)でも行なわれるように祈りなさい、と教えられました！

マタイの福音書6章31-33節を読んでみましょう。

「31ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って心配しなくてよいのです。32これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。33まず神の国(神のご支配と統治)とその義(神が喜ばれること)を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

また、神の御国は必ず、この世をさってからだけではなく、生きているうちにも、すでに御国の民として、神の国を体験することが出来るのです。イエスキリストは祈りを教えてくださった時、「御国が来ますように」と、「御心が天で行われるように、地でも行われますように。」と日々、常に祈ることにより、生きているうちにも、日々の日常生活の中でも実際神の御国を体験することが出来ると約束して下さいました！今日自分の家庭に神の国が訪れているのか、神の御心通りに我が家の中で行っているのかが大切なのです。今も祈り求める全ての人々のうちに、神の国は死んだ後だけではなく、この地上で生きているうちにも、日々の生活の中でも訪れ、体験出来る場所である事を約束して下さいました。

本日、日々、ここに集っているみなさんと我々の愛する子どもたちの心の中、人生の中に、今もなお我らと共におられる父なる神がすべてをすべ治め、見守り、導き、満たして下さいますように祈りませんか。そして、みなさんの家庭と職場とこの教会、牧場など我々が関わっているすべての領域において神の国が来ますように！共に求め祈って行きましょう。そうすればかならず、父なる神は今も信じ求める祈り通りに、神の御国の豊かなさを味わえるように、実際体験出来るように答えて下さると信じます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

神の御心とご計画が全て成就され、全て治めておられるところこそ、人にとって、一番安全と安心出来る憩いの安息出来る場所ではありませんか。なのに、神の御国をまず、第一に求めないわけがあるのでしょうか。いつも我らの祈りの中で、いつも神の御国が訪れるように忘れず、祈り続けて行きましょう。

今日イエスキリストが教えて下さった祈りを通して、教会の家族みんなが、神ご自身が統べ治めておられ、見張り、見守りつつ、すべてを満たして下さいする神の御国を日々体験し、みんなが所有することが出来ますように、日々神の御国の中神の救いの御業を、見守りを、満たしを、癒やし、回復させる神の豊かな恵みと力を体験できる5月の一週間となりますように切にお祈り致します。願わくは、地上であっても神の救いを得られた最高の神の国の民、神の子どもとなり、この地上でも、この地上を去ってからの永遠の時であっても、神の御国で神と共に生きるクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族、全ての牧場の家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。

「御国が来ますように。御心が天で行われるように、地でも行われますように。」 アーメン！